

第4回羽村市長期総合計画審議会における意見等について

①市民意見聴取の結果について

No	委員名	意見・感想等
1	和田委員	町内会・自治会活動は、現在コロナの影響により、ずいぶん低下している。また、会自体も高齢者が多く、加入率については年々低下し、今では30%をきってしまうのではとも思われる。 一般市民向けワークショップ（結果）まとめで、グループ3の意見にもあるように、どんどん参加してもらいたい。また、年間行事についても積極的に来場してもらいたい。若い年代のパワーが必要とされている。お願いします。
2	中村委員	どのワークショップも活発な若さ溢れた内容に未来を感じた。「集うことの大事さ」を実感した。
3	佐藤委員	BBQ場についての記載 多摩川のそば、駅にも近い。とても魅力のある資源がある。活用を積極的にするとさらに良くなると思う。
4	池上委員	「はむらん」の本数を増やし、高齢者等が移動しやすい環境を整えてほしいという要望が強いことが分かる。
5	池上委員	「歩道」を安全で歩きやすい道に！という要望が出ている。 「道路が広い」と感じた人がいる反面、「道路の起伏がガタガタ」と感じている人もいて、地域差のあることがわかる。
6	池上委員	子育て世代向けワークショップに参加した家族は、その後も交流を続けていることが分かり、市で開催するイベントの意義を感じた。 「つながる」ことはとても大事である。
7	池上委員	「子連れでも行きやすい図書館」「病児保育・病後児保育が頼みやすい」「学童の預かり時間が長い」「助産院が近くにある」など、子育て世代にとって魅力な点が多いと感じた。
8	伊藤委員	今回実施した市民意見聴取の取組みは、それそのものが行政の取組みとしてユニークであり、羽村の“強み”を感じた。 一方、こういったものに参加する方は、行政への関心が一般よりも高いと考えられるので、“普通の人”をこういった取組みに巻き込む方法も検討していけると良いと思う。
9	成沢委員	・ワークショップについて 以前に参加した羽村市の若者向けワークショップではファシリテーターが素晴らしく、生産的な意見交換の場となっていた。 こういう場はより多くの方に、若者だけでなく幅広い年齢層に体験して頂きたい。
10	成沢委員	・10年後の羽村市を考える 10年後を考える際の参考になるであろう資料がいくつかある。 (1) 羽村市の人口ピラミッド そのままスライドさせると、おおよそ当たっている10年後の人口ピラミッドになり、ここに計画している羽村市に転入した子育て世代を加えると、目指している姿が浮かび上がる。 そこから高齢化率、労働人口を算出して羽村市の歳入歳出予測をしたり、すでにそういう人口ピラミッドになっている自治体を探したりすると、何かしら参考になる。 (2) 国の方策 最近では2030年代半ばにすべての新車を電動化するという発表があり、またその前には観光収入をGDP比で20%？（←記憶が不確かですが数字は怪しい）を目指すという発表があった。 国が目指すと言えは間違いなくその方向に進むので、羽村市についても観光客が利用する宿が増えたり、EV用充電ステーションが増えたりと、10年後の姿がある程度見えてくる。（コロナの影響で観光業については予定通りの進行は難しそうだが・・・） 上記(1)、(2)以外にも確実に来る未来があるので、そのような情報も交えることで、より有効で具体的なアイデアを出すことができると思う。

No	委員名	意見・感想等
11	成沢委員	・10年後の羽村市を考える 隣の青梅を見ていると一度は青梅を離れたが、また戻ってきた若者などが映画館を作るなど新しい事業を起こしている。そこでいわゆる若者、馬鹿者、よそ者が地域を活性化させると言われるように、外国人や羽村にまた戻ってきた人、海外を見てきた人などを集めてワークショップを行ってみてはどうか。
12	木下智実委員	感想になるが、町内会のシステムを思い切って変えることはできないのだろうか？ということである。機能低下した町内会をいかに活性化させるかという点を大事にしている方が多くいるように思うが、すでに「昔のシステム」である町内会システムなどはむしろ廃止することも視野に入れてよいと考える。ただ、廃止をした際には、新しいシステムを作り出す必要があるだろう。そのような思い切った舵をきることができるか、それがこれからの自治体に求められていると考える。 新しいシステムにおいては、例えば、市民から有志メンバーを集めるなど目的意識を大事にした集団を構築することはできないか。資金に関しては、今まで自治会費（現状、年間1人約3000円が約5万人、約1億5000万円の資金）として集めていた市民からのお金を、その目的に賛同してくれる事業に投資する、すなわち、クラウドファンディングのような形に変えてしまうことも考えられる。市民からのクラウドファンディングで町を変えていく、そのような発想があってもよいかと思う。 コロナ禍を経験した私たちにとって、新しい地域のあり方を模索する必要があるが、それもかなり「突っ込んだ」次元で考えることが重要であると思う。そうでなければ、何も変わっていかず、現状維持で精一杯だろう。
13	木下智実委員	人口を増やすためには、行政サービスのあり方を抜本的に見直す必要があると考える。「羽村市は他の自治体と違って、こんなに便利なのか」と思わせるサービス、そのアイデアはまだ乏しいですが、例えば、すべてスマホで完結する公的手続き（よりマイナンバーを生かして時間の制約を少なくするなど）、通信事業者とタイアップした通信環境の充実（行政のバックアップにより羽村市全体が超高速回線でつながる）など、あってもよいのではないかと。
14	木下智実委員	全体を通して、感じてしまうことは、羽村市にはこれといった魅力が少ないということである。これまでの遺産を活用する試みも必要だが、思い切って新しい魅力を創設することが重要であり、とにかく、他の自治体が思いもつかない目玉となる魅力を作ることが重要であると思う。参考例としてですが、もし既存のものを生かすのであれば以下のようなアイデアを提案する。（コロナ収束後の展開を狙いたい） 春：花と水、水田に超巨大イースターエッグの設置 夏：サンバにまみれる羽村夏祭り、 秋：仮装した市民によるハロウィンフェスタ 冬：冬をあたためる激辛と鍋のフェスタ（羽村駅前を出店、現状、激辛フェスタがありますが、苦手な方が多いと聞きます） キャッチ：「季節による楽しみがあふれる町、HAMURA」 「水が違う、ワクワクが違うHAMURA～町づくりの主役は市民のみなさん！～」
15	平野委員	こうした広聴機会はまちづくりの過程で欠くことのできない重大な意義あるものと考えている。 このような機会のさらなる創出と継続に大いに期待する。 この結果報告内容を参考に、羽村市の未来づくりに対しての自身の要望を再考し、提案についてもさらに熟慮していきたい。
16	平野委員	・シティプロモーションに関して 羽村市は認知度が低い/PRが弱い等を懸念する意見が複数回登場していた。現行のシティプロモーション事業は、主に市外に向けて展開している状況か。 もし羽村市民の目に届きにくいところでPR活動が盛んである場合、残念ながら羽村市民には認識されにくいので「あまりPR頑張っていない」印象になるのではないかと。 「羽村市行政はシティプロモーションに大変力を入れている。市民としても、口コミPRなどに協力しよう」という共働きの方向へもっていくことが理想的であると考えている。そのためには何がこれから必要だろうか。

No	委員名	意見・感想等
17	平野委員	・『土日に仕事をしている親でも参加できるイベントを～』の意見に関して、土日こそ絶対に出勤日となる業種の羽村市民も一定数いるはずなので、大人も楽しめる内容のイベント等は平日開催の増加を促進してほしい。 また、これに関連した要望として、市内の主な公共施設が月曜や祝翌日に定休日となっているために、職場の定休日がそれと重なる市民は、公共施設の利用機会を著しく損なわれている。曜日基準ではない休館日設定を積極的に検討していただきたい。 例えば、毎月3日とそれと同じ曜日がその月の休館となるなど。
18	平野委員	・市内レジャーに関して 「キャンプ・BBQ場がほしい」との意見があった。それらはぜひ、多摩川沿いに存在することを個人的にも望んでいる。 市内市外利用者ともに、羽村の自然美観エリアを体験していただく最高のチャンスになりえる。指定管理者により運営される施設として、誘致するのも良策なのではないか。
19	片山委員	市の税収の減少に対して、具体的に何をしていくかを検討した内容が必要と思う。

No.16 平野委員からの質問に対する市の回答について

質問：現行のシティプロモーション事業は、主に市外に向けて展開している状況か。

市の回答：市では、平成29年3月に策定した「羽村市シティプロモーション基本方針」に基づき、未就学児を育てる20代・30代の共働きの世帯の定住促進につなげ、まちのにぎわいと活力を創出することで、住民福祉の増進を図ることに取り組んでいます。具体的には、羽村市のブランドメッセージを市内外へ戦略的・継続的に発信し、認知度を向上することで、「行ってみたい」「住んでみたい」と興味や関心を持つファンを増やし、転入促進につなげるとともに、羽村市に誇りや愛着を持って活動する人や団体、事業者等を増やしていき、主体的な活動と行政と連携した取組の両面から推進することでブランド力を高め、「参加したい」「住み続けたい」と思うファンを増やし、転出抑制につなげていくことに取り組んでいます。

市では、イベントや市の魅力などを広くPRする通常の広報手段と差別化し、ターゲットを絞った戦略的なシティプロモーションとして、はむら家族プロジェクトや魅力発見市民記者事業、暮らし・子育て体験ツアーなどに、市民・事業者と一緒に取り組んでいます。

②職員プロジェクトチームによる検討の結果について

No	委員名	意見・感想等
1	江本委員	<提案3>「いつでもどこでもつながれる！～スマートシティ HAMURA～」に共感する。 市全体のデジタル環境整備のための人材の発掘や登用が必要になってくると考える。
2	中村委員	若者の意欲に期待する。自由に提案できる職場であってほしいと願っている。 「制服の廃止」を提案する。費用もかかるし、何よりも「動的」ではない。若さが出る、個性と違いが出て、活気がみなぎる庁舎であってほしい。
3	佐藤委員	とてもよい提案5つである。 全て実現、早期着手が楽しみである。若手の活躍が市政を変える。
4	池上委員	入庁2年目から8年目の23人の職員が、5つの班に分かれ、提案1「子育て世代のUターンの促進」、提案2「稼げる行政」、提案3「デジタル時代における「変化への対応」」、提案4「働く」、提案5「アフターコロナにおける防災の在り方」など、まちの未来像やビジョン、市のミッションを検討し、事業案など具体的に方向性を示せたことは素晴らしいと思った。 多様性に配慮したひとりも取り残さないまちを、市民とともに作り上げていってほしいと思った。

No	委員名	意見・感想等
5	伊藤委員	非常に良い取組みと感じた。いただいた提案を真剣に長期計画に反映できるよう、議論していけると良いと思う。
6	成沢委員	素晴らしいプロジェクトと思う。ぜひ今後も続けて下さい。
7	木下智実委員	どの提案もとても優れていると感じた。特に、提案2の稼げる行政、提案3のスマートシティHAMURAは非常に重要であると考え。しかし、どの提案においても環境面における持続可能な社会をつくる視点が欠けていると感じた。羽村市には林業に関わる仕事は少ないかもしれないが、立地的に奥多摩が近いことを生かし、持続可能な木材利用の拠点にするなどの方策も考えたいと思った。羽村市の公共施設には、木材利用がより見込めると感じている。 人材育成の観点も付け加えたい。特に学校教育の中で地域を活用し、地域創生の中で教育機関を活用することが大切だと感じる。例として奥多摩町の実践事例を添付する。(実践事例をご覧になりたい方は事務局へご連絡ください)
8	平野委員	結果報告の内容に、若手職員ProjectTeamの存在を頼もしく感じた。 この職員ProjectTeamを立ち上げた経緯や活動状況などが、今後さらに市民に認識されるよう期待している。 できれば近い将来、高い政策立案能力をもった若手職員たちが活躍する組織風土の市役所となれば、それそのものが市の強い魅力になると想像できる。特に若い子育て層にとっては、親しみやすい地元行政として好印象を抱かれるであろう。

③基本構想の策定に向けて

No	委員名	意見・感想等
1	江本委員	・自然と利便性の共存 増加するリモートワークや働き方改革による意識の変化によって、労働環境は10年で大きく変わると思われる。 山梨や長野まで移住しなくても、羽村で自然を満喫しつつ、都会の利便性も享受して仕事をするをプロモーションしてはどうか。 今ある自然や公共施設の保持・充実と併せて、デジタル環境の整備が必須と考える。
2	中村委員	・市民が、何事にも主体的にかかわりを持って取り組めるまちに。そのためにはまず、まちを知るチャンスづくりを。 ・日常的にひとが行き交うまちに、そのための仕掛けを多面的に創出する ・自然は未来に残すべき財産 できるだけ田んぼや畑を残してほしい
3	山下委員	●財政の見直しと市民サービスの重点化 ・人口減少による行財政のスリム化。 ・高齢者と子育て世代のニーズに対応を絞る。 ・防災対策はハザードマップを基本に具体的な対策を。 ・公園を5万人都市として再度見直し、リニューアルする(高齢者と子どもが活用しやすいエリア化) ●自然を生かした街づくり ・多摩川流域、畑、林の保存 ・歩道の緑化 ・電柱の地中化 ●病院と高齢者施設の連携強化 ・「はむらん」の活用

No	委員名	意見・感想等
4	橋本委員	<p>多摩川の活用について (羽村/自然/多摩川/子ども/遊び) 夏休みでも多摩川で遊んでいる子どもをほとんど見たことがない。 親子連れで多摩川に来てバーベキューをしているくらい。親が川で遊んだことがないから遊び方がわからない。多摩川というキーワードは多く出てくるが、今のままでは水が冷たくて危険、子どもから目が離せない、魚も釣れない(大人でも)。川があることを知っているだけ。でも、かつて多摩川は少年たちの社交場であった。 宮ノ下グラウンドの先には広い河原が広がっている。2年に一度、宗教行事の灯籠流しで水路を作り翌日には埋め戻される。そこに遊びの拠点を作りたい。本流から浅い水路を何本か引き込み途中に池を作る。深い池と浅い池、幼児用と一般用。そうすると水温が上がり水生昆虫や小魚が集まってくる。無論、年齢を問わず安全に泳ぐことも可能だし按摩釣りもできる。 小作の堰下から本流はフライフィッシングのキャッチ&リリースエリアとする。年間を通じて都内からのフライフィッシャーが絶対やってくる。魚道が機能するようになったら天然のアユ釣り期間を設ければよい。奥多摩漁協と掛け合うには、市を挙げての交渉が必要である。川(川原)の利用は河川法という意味不明な規制で縛られ、おまけに利権が絡むが、一つ一つ壊していかないと本当に自由な自然を取り戻すことはできない。これは個人の力ではどうにもならない。あらゆる手段を使って行政が取り組むべき課題であると考えている。人の手が加わっているけれど、子どもたちに自然を取り戻し、遊びの中から様々な技を学び、楽しさを知り、原風景を作り上げていくことが、未来に向けての大人の役割である。自然を大切にと言うが、自然の中で過ごすことがない大人には大切にする方法も意味もわからない。</p> <p>河原の水路は大雨や台風が来ればすぐに壊れてしまうが、そのたびに新しく作り直せばよい。水上公園を維持するだけの費用があれば微々たるものである。できれば川原に管理人を置きたい。昔、川でさんざん遊んだ高齢者はいくらでもいる。研修を受けたボランティアやリバーキーパーの養成と設置により、川遊びの指導、安全管理、切り傷や熱中症や虫刺され等のリスク対応、昔の漁法のデモンストラーションなども行う。 阿蘇公園は市で借り上げて解放し、ソロキャンプも可能とする。市は年に2回、やぶ蚊やマダニの駆除などを行い、夏場でも気持ちよく過ごせるような木陰を作ってあげればよい。狭いエリアであるから、管理にそんなにお金はかからない。多分、職員一人分の人件費があれば十分である。 ちなみに私の保育園では毎年多摩川に泳ぎに行き、阿蘇神社の草むらでテントを張りキャンプをしている。10年後、全ての子どもたちが羽村の多摩川でそのような経験をしてから大人になってもらいたい。もし自分にできることがあるなら、私はもうすぐ定年なので、その手伝いを喜んでさせていただく。</p>
5	佐藤委員	<p>健全な財政あつての政治、生活だと思ふ。財政が厳しいのであれば、限りある資源の活用、早期リストラが重要。 中には厳しい意見もあるが、抜本的に見直すことも重要に思った。たとえば、資料4-(2)-8(成沢委員)の意見、資料4-(2)-3(橋本委員)の意見は、実務、実績に結び付く視点だと思ふ。 皆、羽村が好きな市民の意見である。職員プロジェクト5つを早期に対応してほしい。</p>
6	池上委員	<p>若い世代、子育て世代、一般市民それぞれが望む居場所がまちのあちこちにあり、交流を通して、お互いに支え合い、生き生きと暮らせるまち 年々増加する高齢者のエンパワーメントを引き出せる活動の場づくりを進めるまち (例: シルバー人材センターに登録し、特技を活かし、収入にもつながると生活に張りが出てくるし、子育て中の悩みなども気軽に相談できる人生の先輩たちの役割はたくさんあると思う)</p>
7	山田委員	<p>10年後、私は羽村市に現在の羽村の良さを残した住みやすいまちであってほしい。 チューリップ畑や多摩川、市内の樹木などの素敵な自然を残しつつ、道路標示の見えづらい部分や、ちょっとした段差がなくなると、より住みやすいまちになる気がする。 また、インフラ面だけでなく、より安心して安全なまちにするために、自分たちが率先して挨拶を増やしていきたい。 「笑顔でいっぱいのもち羽村」</p>

No	委員名	意見・感想等
8	伊藤委員	<p><10年後> ●「共助のまち」 ・行政と市民がお互いに支え合う ・若者・子育て世代と年配者がお互いに支え合う ・消費者と事業者がお互いに支え合う など [良いところ]小さい、ゆえに市民同士“顔が見える” [改善]コミュニティに参加する人（少数派）、しない人の分析 [挑戦]ITを活用し、“共助”を促すプラットフォームを構築 [自分ができること]共助に関する市民団体への参画（立上げ） <アイデンティティ> ●職住一致 ・既存の産業（工業地域など）を残しつつ、新規の創業がしやすい（副業が当たり前の世の中になっていくため） ・リモートワーカーにとってうれしい街（ワーキングスペース、息抜きなど） ・年配者が地域で生き生きと働ける（ボランティア含む） <キーワード> ●共助のまち</p>
9	成沢委員	<p>・10年後、羽村市がどのようなまちであってほしいか 地域によって差はあれど、風通しの良さは羽村市の長所であり大切にしてほしい。 目線は高く、多摩地域でのNo.1を目指すのではなく日本1を、国境を越えられるところを目指してほしい。</p>
10	木下智実委員	<p>・個人的な意見としては、（1）（2）で述べたことが中心になる。 ・自身は、市民記者として羽村市のPRを今後も続けたいと考えている。 ・また、羽村市の教育改善のためになにか有志の教育者を集めた学習会などを開催することを目論んでいる。</p>
11	平野委員	<p>10年後のはむら暮らしにあってほしいモノ・コト。 ・羽村に住んでいてよかった！と感じる市民が7割以上である ・子どもたちの心身ともに健康な発育を支援するコミュニティー ・子どもたちの心身ともに健康な発育の支援となる市内環境/設備 ・子どもたちが安心して単独で市内を移動できる治安 ・西多摩市町村のなかで群を抜く、質の高い環境教育 ・10代後半世代に向けての、生活スキル(家事)教育の向上 ・多様なジャンルの学び/人との出会いの機会が、中高年層にとっても豊富にある ・子育てから手が離れた後や退職後も、羽村に飽きずに楽しみながら暮らせる ・市民と行政のコミュニケーションが円滑である ・市民の声が市政に反映されている成果が明確に市民に伝わっている ・市民のあいだで我がまち運営参加意識が高く、「暮らしよいまちは自分たちで育てられる」を実感できる ・生涯学習企画としての「大人たちの再通学？」※1 ・レジャースポットのさらなる創出※2</p>

No	委員名	意見・感想等
12	平野委員	<p>※1：子供たちが今学校で学んでいる内容を、大人たちも再勉強できたら面白そうだ。たとえば、40～50年前の教科書内容から変化している部分を重点的に取り上げたり、もう一度受けたい授業項目を募集して実施したりするなど。オンライン化の時代だが、週末や夜に校舎が解放され、あえて教室に集合する機会があるのも素敵だと思う。(もちろん毎日通学ではない)</p> <p>※2：市内企業が市民向けアトラクションを企画できないだろうか。今や大人にも子供にも大人気なあの職業体験型アミューズメント施設がヒント。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車ランド(日野自動車?) ・Printランド(印刷所?) ・科学実験ランド(宇宙工学企業?) ・食品製造見学コース? ・家具/内装リノベーションワークショップ(廃棄家具と空き家の活用)など

④その他 第3回審議会での意見、市からの回答に対する追加意見等

【参考】第3回審議会時の意見等と市からの回答

No	委員名	資料No.	追加意見等	所管部	市からの回答	委員名	意見・質問等	市からの回答	
1	中村委員	第4回資料4 P.5 No.31	「高齢化に伴い分別が困難」との説明に異議あり。以前にペットボトルの回収を拠点回収から個別回収にした時も高齢者の「大変だ」という意見で切り替えたという悪例がある。「家庭が一番小さいゴミ処理場」という考えを市民に徹底してほしい。どうしても分別ができない高齢者には個々に対応。	産業環境部	今年度、第六次長期総合計画の策定とともに、一般廃棄物の発生・排出抑制、減量化、資源化並びに適正処理に関する市の長期的、総合的な方向性を示す「羽村市一般廃棄物処理適正化計画」についても改定いたします。この検討の中で、より適正な減量化、資源化等について、西多摩衛生組合組織構成市町間での収集対象品目や収集方法の統一などを含め検討を進めていきます。	平野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・最終処分場への埋め立てゴミがゼロになったことは高く評価できる。 ・高齢化世帯のゴミの分別については、その困難さを軽減する策がとても必要だと感じている。 	羽村市は、これまで歩んできた歴史や地域性から、ごみの適正処理の関心が高く、市では、法律に即し率先した対応を図ってきた。その結果として、ごみの減量と資源化の促進が図られており、このことは、市民や事業者の努力によるものと捉えている。一方、少子高齢化の進展に伴い、17分別での排出が困難との相談が寄せられていることから、次期計画においては、その対応策を講じていきたい。(産業環境部)	第2回審議会資料 資料3、P.8
2	中村委員	第4回資料4 P.6 No.39	事業ごみを含めての計算には疑問。一人当たりのごみ量が計算できないものか。市民は分別を徹底して資源化を目指し、燃やすごみを少しでも減らそうと努力している。それが評価されない計算の仕方はいかがなものか。	産業環境部	今年度、第六次長期総合計画の策定とともに、一般廃棄物の発生・排出抑制、減量化、資源化並びに適正処理に関する市の長期的、総合的な方向性を示す「羽村市一般廃棄物処理適正化計画」についても改定いたします。この検討の中で、より適正な減量化、資源化等について、西多摩衛生組合組織構成市町間での収集対象品目や収集方法の統一などを含め検討を進めていきます。	平野委員	ごみ量について羽村市民の1人1日あたりごみ量が、他の多摩25市に比べてこんなに多いのはなぜか。	資料のごみの量については、羽村市の特性として、市内に数多くの事業所が立地し日夜操業しており、家庭ごみだけでなく、事業所から排出されるごみを含めて人口で除したものであることから、1人1日あたりのごみ量が、26市の中で高くなっている。(産業環境部)	第2回審議会資料 資料3、P.25